

化学教育 徒然草

注目される我が国の 高等専門学校（高専）教育

TANIGUCHI Isao
谷口 功

(独)国立高等専門学校機構 理事長
平成 29 年度日本化学会 筆頭副会長



巻頭言

我が国の高等専門学校（高専）は、昨今、富みに国際社会から高く評価されている。東南アジア諸国はもとより、中央アジアを含むアジア諸国、アフリカ、北欧、中南米の諸国から、高専教育システムの当該国への「移植」を目的とした問い合わせが絶えない。周知の通り、高専は、我が国の複線型の教育体系の中で、極めてユニークで、かつ我が国の発展に貢献してきた教育システムである。本科の5年一貫教育と専攻科2年課程を持っている。卒業後の進路も多様である。高専教育は、中学校卒業後の15歳からの若者を、座学（講義）に加えて実験や実習によって実務能力を鍛え、さらには、各種コンテスト（ロボット、プログラミング、デザイン、英語プレゼンテーションコンテストなどがある）への参加などによって現実の課題と向き合う機会をもつことで、「実践的かつ創造的な技術者」を養成する、特徴ある教育システムになっている。

筆者は、その教育の目指すところを、国内外で、人の健康を守る役目をもつお医者さん（メディカルドクター）になぞらえて、若者を「社会のためのお医者さん、ソーシャルドクター」に育てる教育システムと説明している。また、新しい価値や概念、方法論を生み出す「創造者、クリエイター」になることも目指していると伝えている。最近では、「KOSEN」や「Social Doctor」という言葉が国際的にも通用するようになってきている。国際的なコンテストにおいても優秀な成績を修めてきたことから、実験・実習を通してモノやコトに対するセンスを体得し、新しい技術を実際社会に展開できる技術者を育成する、高い実務教育レベルの教育システムと評価されている。例えば、モンゴルでは「高専はアジアの未来」と言っており、その教育システムの導入に積極的に取り組んでおられる。高専で育った技術者、研究者、クリエイターは、産業界を中心に大学等の教育研究機関にも数多く存在し、その専門性や実務能力は、教育界、産業界、さらに国際社会から高く評価されている。

化学や材料は、我が国の最も強い学術・産業分野の一つであり、国際社会の中で今後もその地位を維持・発展させることが求められている。また、新しい価値を創り出すために、実験研究の役割が大きな領域でもある。「化学オリンピック」なども有効に活用しながら、我が国の活力ある将来に向けて、初等中等教育、高等教育の枠を超えた連携によって、教育現場で実験の面白さを伝え、化学分野を担う若者を育てる努力が必要である。

[連絡先]

193-0834 東京都八王子市東浅川 701 番 2 (勤務先)